

山口県病院協会 会報

2020 **4月号** No.67

- 発行日 令和2年4月1日
- 発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
- 電話 083-923-3682
- FAX 083-923-3683
- 発行人 三浦 修
- 印刷所 大村印刷株式会社
- メールアドレス info@yha.or.jp
- ホームページ <http://www.yha.or.jp>



医療法人財団神徳会 三田尻病院

〒747-0819

住 所 防府市お茶屋町3番27号

電 話 0835-22-1110

F A X 0835-22-1048

URL : <http://www.mitajiri.net/>

CONTENTS (目次)

会員病院紹介	2 ページ
協会役員コーナー	3 ページ
病院スタッフコーナー	4 ページ
四県病院協会連絡協議会報告	5 ページ
事務長部会コーナー	5～6 ページ
諸会議報告	7 ページ
お知らせコーナー	8 ページ

会員病院紹介

理事長挨拶



医療法人財団神徳会
三田尻病院
理事長

神徳 眞也

三浦修会長率いられる山口県病院協会の皆様には、常日頃よりご指導、ご支援をいただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

私たちの三田尻病院は、現在地に明治31年、曾祖父「神徳一人」によって私立三田尻病院として開設されております。明治16年の開業以来130余年、歴代スタッフのたゆまぬ努力と地域の皆様に支え育てられ、地域と共に今日まで歩んでまいりました。その間、第2次世界大戦の勃発と敗戦、戦後の混乱と健康保険制度もない中、病院経営は困窮を極め、昭和26年1月に病院の永続性確保のために土地建物等の私有財産の寄付行為を施行し、医療法人財団神徳会三田尻病院に改組され、現在に至っております。

私たちの三田尻病院は、一般病床94床、地域包括ケア病床50床の144床の小さな病院ですが、地域に必要とされる医療を提供できる病院を目指しております。CO中毒に対応するための高気圧酸素チャンバー装置や増加する腎不全患者様へのオンラインHDFは、20年以上前からの導入で、患者様に喜ばれております。平成26年、地域包括ケア病棟開設時に導入した電動ベッドが看護、介護の負担軽減に繋がることが判り、翌年院内全病床を電動ベッド化し、患者様のみならずスタッフにも喜ばれております。

また、1994年立ち上げの健診センターは、市町村検診共に500を超える企業検診にも対応しており、地域で働く企業の皆様にも喜ばれております。

今後も山口大学医学部から多くの診療応援をいただきながら、山口県総合医療センターを中心とした防府地域医療・介護の一翼を担うべく努力し続けてまいります。

基本理念 「病院は地域そしてスタッフのもの」

目 標 「地域に求められる良質かつ適切な医療が提供できる病院」

「快適で活力ある働きがいのある病院」

医療制度がどのように変わっても、医療の基本が患者さんとの信頼関係であることは変わらないと思っています。そして、その信頼は常に目の前の患者さんに集中し、生命を尊重し、愛情をもって、全力で尽くすことでしか得ることはできないと思っています。信頼を得ることは容易ではありません。しかもその信頼を失うのは一瞬です。しかし、その信頼こそが医療人にとっては、正にかけがえのないものであることを忘れてはいけません。今後ともよろしくお願い申し上げます。

〈病院の現状〉

1) 概要

名 称 医療法人財団神徳会 三田尻病院

開設者 理事長 神徳 眞也

住 所 山口県防府市お茶屋町3番27号

T E L 0835-22-1110

F A X 0835-22-1048

E-mail somul255@mitajiri.net

U R L http://www.mitajiri.net

病院長 豊田 秀二

診療科 内科・呼吸器内科・循環器内科・消化器内科・
血液内科・糖尿病内科・腎臓内科・神経内科・
人工透析内科・外科・乳腺外科・血管外科・
整形外科・脳神経外科・アレルギー科・小児科・
皮膚科・泌尿器科・眼科・放射線科・歯科・
歯科口腔外科

病床数 144床

一般病床 94床

地域包括ケア病床 50床

2) 沿革

明治16年 開業

昭和26年1月 財団法人として寄付行為履行

昭和26年3月 医療法人財団神徳会 三田尻病院設立

昭和54年10月 CT設置

平成6年12月 M R I (1.5T) 設置、心血管造影装置設置、腎センター開設

平成10年4月 災害拠点病院指定

平成18年2月 結核病棟廃止

平成19年4月 物品管理システム (S P D) 導入

平成20年3月 C T (16列M S C T) 更新

平成20年6月 M R I (1.5T) 更新

平成21年6月 医療情報システム (電子カルテ、レセプト電算化) 運用開始

平成26年12月 地域包括ケア病棟50床開設

平成30年1月 C T (80列) 更新

3) 特徴

地域と共に130余年現在、そしてこれからも皆様とともに

私たちの三田尻病院は、現在地に明治31年に開設され、明治16年の開業以来130余年、歴代スタッフのたゆまぬ努力と、地域の皆様に支え育てられ、地域と共に歩んできました。

現在は、山口大学医学部から多くの診療応援をいただきながら、山口県立総合医療センターを中心とした地域医療・地域介護連携の一翼を担うべく、スタッフ一同、努力し続けております。今後も、患者様を中心とした、心の通う医療の実現を目指して努力してまいります。

協会役員コーナー

当院の26年の変遷



一般社団法人岩国市医師会
岩国市医療センター
医師会病院

病院長 茶川 治樹

当院は、平成5年に160床の急性期の医療機関として開設されました。当時の岩国市内の総合病院は国立岩国病院（現岩国医療センター）のみであり、救急医療の負担を分散する目的で、岩国市の支援のもと開設されました。平成16年には50床の回復期リハビリ病棟を開設し、201床の病院となりました。山口大学から、第一・二・三内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、麻酔科、放射線科など、計20人以上の医師が派遣され、市民に必要な不可欠な医療機関として機能してきました。

しかし、臨床研修制度が変更になった以後、山口大学からの派遣医師は次第に減少し、平成29年には整形外科、小児科、麻酔科の3科、計6人の常勤医派遣となりました。そのため病棟機能を再編し、急性期病床38床、地域包括ケア病棟92床、回復期リハビリ病棟50床、計181床としました。現在の常勤医師は山口大学以外の医師を含め10人ですが、専門分野にとらわれず入院患者に対応してもらっています。

岩国医療センターが急性期病院として円滑に機能するために、地域包括ケア病棟や回復期リハビリ病棟に早期に転院できるように緊密な連携を取っています。また患者さんが退院後に安心して在宅生活が送れるように訪問診療や訪問看護・リハビリにも取り組んでおり、関係者とも連携して入院医療から在宅ケアまでを岩国圏域で完結できる体制を目指しています。

南海トラフ大地震を想定した災害医療を考える



小野田赤十字病院

病院長 清水 良一

令和2年（2020年）1月24日に政府の地震研究推進本部（地震本部）より地震調査委員会（事務局：文部科学省）のまとめた「南海トラフ沿いで発生する大地震の確率論的津波評価」との報告書が公表されました。それによると、南海トラフ沿いで30年以内にM8～9級の大地震が発生、山口県瀬戸内海沿岸地域で波高10メートル以上の津波に見舞われる確率は0～6%であることが図解されていました。また、確率の6%は500年に1回起きる確率と言い換えられるとのこと（時事通信社2020.1.24）。山口県では5メートルを超える津波についても、もはや想定外とは言い切れない状況となった感があります。

日本の災害対策基本法には指定公共機関（全国83機関）の災害時の役割が定められています。その内、日本銀行、日本赤十字社、日本放送協会の3機関は固有名詞で条文化されています。当院も全国91の赤十字病院に常設された救護班、489班の内、2班を有し、これまで東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害で救護活動に参加して参りました。阪神淡路大震災を契機に、日本赤十字社、行政管轄のDMAT、日本医師会管轄のJMATおよび行政からの要請に応じて出動する自衛隊が災害時の救護活動で協力して機能する仕組みが日本国内で整えられてきたところです。

しかし、南海トラフ沿いの大地震では、津波一つをとっても、同時多発的な甚大な被害が想定され、他府県からの救援がなくても自前で何とか持ちこたえられる対策も練っておくことが肝要だと思いました。具体的には、赤十字救護班、DMAT、JMAT等で実際の災害医療に参加経験のある方々に、行政の担当官も交えた協議を通じて、災害弱者に対する避難・救護の手順を作成し、住民に周知しておくことが喫緊の課題であろうと思う今日この頃です。

病院スタッフコーナー

在宅医療に携わって



医療法人仁徳会
周南病院
看護師

棟近 恵理

2015年10月より「特定行為に係る看護師の研修制度」、通称「特定看護師」の制度が施行されました。国は2025年までに約10万人以上の修了者を目標に掲げていますが、現実には厳しい状況です。この度、研修内容や時間の見直しが行われ、2020年度より3領域のパッケージ化研修が開講されました。その一つに「在宅・慢性期領域」があり、気管カニューレの交換や、胃ろうカテーテル・ボタンの交換、持続高カロリー輸液の投与量の調整、脱水症状に対する輸液による補正、褥瘡又は慢性創傷の壊死組織の除去など、在宅領域で頻度の高いものがパッケージ化されています。超高齢社会において、在宅医療での看護師の役割はさらに大きくなっていくことと考えます。

JR徳山駅のほど近くにある当院でも、外来と56床の病床に加え、在宅診療を行っています。月2回の訪問診療による健康管理や、緊急時の往診、必要時の訪問看護などを行い、住み慣れた場での療養生活を24時間サポートできる体制をとっています。私は、急性期病院での経験を経て、以前より興味があった分野に飛び込んでまいりました。産休・育休も取得し、家庭と仕事を両立させながら4年が経ちます。「生を高める」を信念にもつ医師の元で、何がこの方の為なのか、健康と生活、どちらも支えたいと模索しています。実力不足を痛感しつつも、やりがいを強く感じる毎日です。これからも、患者さまお一人お一人の人生に寄り添える看護師になれるように、日々精進していく所存です。

働き始めてわかったもう一つの仕事



医療法人博愛会
宇部記念病院
管理栄養士

古田 智子

「食べること」が大好きで、食に携わる仕事に就きたいと思い、管理栄養士として働き始めました。

管理栄養士としての職務は、実際自分が思い描いたものとは違い、人と接することが苦手な私にとって、「食」の提供だけでなく、食を通しての人とのコミュニケーションがこんなにも大切であるのかということに、働きだして初めて実感しました。栄養ケア、栄養指導などに介入するにあたっての患者様、ご家族様とのコミュニケーション、よりよい食事を提供する為の栄養科職員とのコミュニケーション、また患者様の情報共有としての他職種とのコミュニケーションは、日々、大変大切に感じております。その中でも栄養指導では、患者様とのコミュニケーションがいかに大事かということが結果として数字上につながってきます。わかりやすいように、また自分自身も伝える言葉一つ一つを選びながら介入するよう心がけています。指導では患者様の声をいかにして多く聞き出すかがとても大きな鍵になってきます。個々人のペースに合わせて声に耳を傾け、時には世間話も交え、お互いの信頼関係を築けるように心がけています。患者様だけが頑張るのではなく、自身も患者様の食生活をどのように改善していくか、いかにして長く続けていただくかを一緒に考えていくように努めています。

日々新しい情報が飛び交う今、自分自身も知識不足を痛感します。少しでも多くの知識を学び、多方面にて貢献できるようになればと思っております。

四県病院協会連絡協議会報告

第25回 四県病院協会連絡協議会

令和2年1月24日（金）、岡山市のホテルグランヴィア岡山において、岡山・広島・山口・福岡四県の第25回四県病院協会連絡協議会が開催された。

当日は、山口県病院協会より三浦会長ほか3名が出席し、他県から役員22名、また今回は鳥取・島根・香川県の各団体からオブザーバー5名の出席があり、総勢31名が一堂に会した。

最初に各県病院協会の事業実施状況について説明があり、続いて各県が提出した議題等について意見交換が行われた。

各県病院協会が提出し意見交換された議題は次のとおり。



協議会風景

- | | |
|--|-----------------|
| 1) 各県病院協会の事業実施状況について | (各県資料交換・特記事項説明) |
| 2) 地域医療構想における公立・公的病院と民間病院の役割について
特に公立・公的病院の地域包括ケア病棟と回復期リハビリ病棟のあり方 | (広島県提案) |
| 3) 病院業務タスク・シフティングについて | (山口県提案) |
| 4) 医療事故調査制度における死因の検証・分析について | (福岡県提案) |
| 5) 働き方改革への対応について | (岡山県提案) |
| 6) その他 | |

事務長部会コーナー

山口県病院協会事務長部会 各支部会議報告

【下関支部】

開催日 令和2年2月25日（火）

場 所 下関看護リハビリテーション学校

内 容 各病院の近況および懸案事項、意見交換

- ・医療保健業に対する労働時間等説明について
山口労働局
- ・民法改正（連帯保証人の連帯保証極度額）について
- ・メドトロニック社製ペースメーカーのチェック費用について
- ・中国四国厚生局個別指導について
- ・同一労働同一賃金について
- ・診療報酬改定情報交換について
- ・令和元年度冬季医療経営講習会について
- ・その他



下関支部

事務長部会コーナー

令和元年度 山口県病院協会事務長部会 第2回研修会

令和2年2月26日（水）、山口グランドホテルにおいて、令和元年度山口県病院協会事務長部会第2回研修会が開催され、92名の参加があった。テーマ・講師については以下の通り。

【研修会】

テーマ 「2020年度診療報酬改定の概要 ～入院医療関連を中心に～」

講師 株式会社セイエル 医薬営業本部
営業支援 担当部長 谷野 美智雄 氏



谷野 美智雄 氏



研修会風景



社会医療法人同仁会
周南記念病院
事務部長

三宅 宏俊

～事務長部会研修会に参加して～

新型コロナウイルスの感染が全国に拡大している中で、参加される方が少ないのではと思っておりました。しかし4月の診療報酬改定は病院にとって今後の病院運営を左右するものであり、興味もあることから会員病院及び賛助会員から92名のご参加を頂きました。

研修会は、株式会社セイエルの医薬営業本部 営業支援担当部長の谷野美智雄先生より、「2020年度診療報酬改定の概要 ～入院医療関連を中心に～」と題して講演がありました。

今回の改定は、目標としていた今までの2025年からその先の大きな節目の2040年を見据えた内容であり、人材不足等の新たな課題に対応するため、地域医療構想の実現に向けた取組、医療従事者の働き方改革、医師偏在対策を三位一体で推進し、総合的な医療提供体制改革を実施していくとのことでした。110枚以上のスライドを詳細に説明され、2時間弱の時間が短く感じさせられる講演をして頂きました。

今回の改定はマイナーチェンジ、ただ病院によっては厳しい改定と言われました。この改定に合わせ、自院の病院機能や置かれている立ち位置を見極めて対応していくことが大事であると改めて感じさせられた講演でありました。

諸会議報告

令和元年度 第1回総務委員会

日時 令和2年1月17日（金）16：00～16：30
開催場所 山口グランドホテル

【議 事】

1. 令和2年度県選奨受賞候補者の選について
2. 令和2年度県知事表彰（看護職員）推薦について
3. 令和2年度県知事表彰（救急医療）候補者選定について
4. 令和2年度病院優良職員の表彰（山口県病院協会会長表彰）について
5. 令和2年度山口県病院協会事業計画（案）について

【その他】

令和元年度 第5回理事会

日時 令和2年1月17日（金）16：30～
開催場所 山口グランドホテル

【承認事項】

1. 令和元年度山口県病院協会収支予算の執行状況について
2. やまぐち作業療法フェスタの後援について

【報告事項】

1. 第15回医療関係団体新年互礼会について
 2. 第25回四県病院協会連絡協議会について
 3. 山口銀行との金融懇談会の開催について
 4. 県医師会役員との懇談会の開催について
 5. 事務長部会研修会の開催について
 6. 看護部長部会設立総会及び研修会について
 7. 病院医療事務担当職員研修会について
 8. 冬季医療経営講習会について
 9. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県医療勤務環境改善支援センター運営協議会委員
常任理事 松谷 朗（再任）
 - ・山口県訪問看護推進協議会委員
理 事 西田 一也（新任）
 10. 県各種委員会等の結果報告について
三浦会長
 - ・山口県における地域医療構想に関する国と自治体等との意見交換会（11月12日）
 - ・令和元年度山口県医療審議会（11月18日）
神徳副会長
 - ・県民の健康と医療を考える会総会（11月12日）
- 村上理事
・山口県高齢者保健福祉推進会議（10月16日）

【その他】

令和元年度 第4回情報管理委員会

日時 令和2年3月11日（水）16：00～17：00
開催場所 新山口ターミナルホテル

【協議事項】

1. 4月号の発行について
2. 7月号の発行準備について
3. その他
 - ・国勢調査に係る協力依頼について

令和元年度 第6回理事会

日時 令和2年3月25日（水）15：00～
開催場所 新山口ターミナルホテル

【議事次第】

1. 山口県病院協会役員退任慰労金規定の一部改訂について
2. 山口県病院協会旅費規程の一部改訂について
3. 山口県病院協会令和2年度事業計画書（案）並びに収支予算書（案）の設定について

【承認事項】

1. 令和元年度病院協会決算予測について

【協議事項】

1. 病院初級職員研修会について
2. 夏季医療経営講習会について

【報告事項】

1. 県行政委員等の推薦について
 - ・山口県医師会地域医療対策委員会委員
会長 三浦 修（再任）
 - ・山口県献血推進協議会委員
副会長 馬場 良和（再任）
2. 県各種委員会等の結果報告について
三浦会長
 - ・令和元年度第2回山口県医療対策協議会（2月17日）
 - ・令和元年度第2回山口県医療審議会（2月21日）
 - ・第102回医療法人部会（2月21日）
村上理事
 - ・令和元年度山口県肝炎対策協議会（2月18日）

【その他】

- ・県審議会、他団体役員会、行事等の出席確認について

お知らせコーナー

正・副会長、顧問会議

令和2年2月20日（木）、山口市湯田温泉「古稀庵」において、定例の山口県病院協会正・副会長、顧問会議が開催されました。三浦会長、神徳副会長、馬場副会長、小田顧問、水田顧問と事務局長の計6名が出席し、来年度の事業計画などについて協議を行いました。

会員等の異動

法人名の変更	変更後	変更前
・尾中病院	社会医療法人いち樹会	社会医療法人
会員の変更	変更後	変更前
・昭和病院	理事長 吉水 一郎	病院長 佐柳 進

～事務局からのお願い～

病院の住所や理事長・病院長先生並びに事務長、診療科目・病床数などに変更があった場合は、当協会事務局までお知らせください。

なお、変更届の様式は協会ホームページ（<http://www.yha.or.jp>）より印刷することができます。



病院協会の主な行事予定

○5月20日	第1回理事会	（会場：新山口ターミナルホテル）
○5月27日	山口県病院協会定時総会	（会場：山口グランドホテル）
○6月10日	第1回情報管理委員会	（会場：新山口ターミナルホテル）
○6月22日	初級職員研修会	（会場：山口県総合保健会館）
○7月8日	第2回理事会	（会場：新山口ターミナルホテル）

編集後記

◆新型コロナウイルス感染は世界全体に拡がり、ますます混迷の度を深めています。国家も、そして個々の病院もまさに危機管理に追われる毎日です。1日でも早くワクチンや有効な薬剤が開発され、流行が終息して欲しいと願っています。◆4月に診療報酬改定がありました。病院には、予想を上回るペースで進行している人口の減少に加え、医師の偏在、政府の進めている地域医療構想や働き方改革など、待ったなしの課題が山積しています。近い将来はさておき、病院の今後、10年先、20年先のことなど予測不能です。◆地域の方々の信頼を得ていれば病院は持続可能であると思っていましたが、昨年の再検証対象医療機関の選定を見ていると、それだけでは不十分のようです。国のお金と医師の不足が全ての引き金だと思いますが、パンドラの箱はすでに開いてしまったようです。 (名西史夫)